

2015年7月6日

各位

大阪信用金庫
理事長 樋野 征治

定例調査：第164回 景気動向調査（4～6月期）

☆売上D I・収益D I 足踏み状態へ

☆設備投資「予定あり」+1.0ポイント 設備「実施・予定」が17.5%

☆問題点「仕入単価の上昇」45.6%

☆夏のボーナス支給 前年比プラス0.5ポイント止まり

●売上D I・収益D I 足踏み状態へ

総合では、売上D Iが $\Delta 7.1$ （前回比+0.2ポイント）、収益D Iが $\Delta 10.2$ （前回比 $\Delta 0.1$ ポイント）となり、売上D I・収益D Iともに1-3月期から横ばいとなりました。1-3月期から売上D Iが大きく下落したのは製造業で（前回比 $\Delta 4.8$ ポイント）、2期連続の下落となりました。また卸売業や建設業、運輸業でも売上D Iは下落しています。

7-9月期の売上D Iの見通しは、製造業や卸売業、飲食業、サービス業、運輸業、不動産業で上昇し、小売業や建設業では下降しています。

建設業はこれまで比較的順調に推移していましたが、消費増税前の駆け込み需要による住宅建築は終盤に入り、受注は停滞ぎみな上に人手不足感も強く、先行き不透明感が漂っています。

●設備投資「予定あり」+1.0ポイント 設備「実施・予定」が17.5%

設備投資は、「実施中」が8.3%（前回比+1.0ポイント）、「予定あり」が9.2%（前回比 $\Delta 0.6$ ポイント）となり依然堅調に推移しています。「実施・予定」は、製造業と建設業が18.7%、卸売業が18.3%となり、これらの業種では特に高水準で推移しています。設備投資の主な内容は、「機械の新設・増設」が31.2%と最も多く、特に製造業では最新設備の導入を検討する企業が増加しています。

●問題点「仕入単価の上昇」45.6%

経営上の問題点では、「売上の停滞・減少」が52.1%、「仕入単価の上昇」が45.6%、「価格競争の進展」が38.8%となりました。「人手不足」は建設業で40.2%、運輸業で37.7%となり依然大きな問題点です。また、「仕入単価の上昇」は、卸売業では60.4%と最大の問題点となり、製造業で55.0%、飲食業で53.2%、建設業で43.5%となりました。

円安による仕入価格の上昇は続いており、今後収益性の悪化が懸念されます。

●夏のボーナス支給 前年比プラス0.5ポイント止まり

夏のボーナスを支給する企業は全体の54.7%（前年比+0.5ポイント）となり、昨年と比較して微増に止まりました。また支給金額は、「11～20万円」が34.1%、「21～30万円」が30.5%となっています。

調査時点：2015年5月下旬

対象期間：2015年4～6月（実績） 2015年7～9月期（見通し）

対象企業：当金庫お取引先1,776社（大阪府内、尼崎市）

回答企業数：1,259社（回答率70.8%）

調査方法：調査票郵送および聞き取り調査

本調査に関するお問い合わせは下記までお願いします

株式会社だいしん総合研究所（担当：平山）

TEL：(06) 6211-2921 FAX：(06) 6211-2930

E-mail：souken@osaka-shinkin.co.jp

URL http://www.osaka-shinkin.co.jp

この街のホームドクター



大阪信用金庫